

第66回 全日本実業団対抗陸上競技選手権大会

【出場結果】

実施日 : 9月22 (土) 3000mSC

会場 : ヤンマースタジアム長居

出場者 : 平塚 祐三

出場種目・出場者・リザルト (LAP) : 3000mSC

| Lap | 平塚 |
|-------|---------|
| 1000m | 2'55"2 |
| 2000m | 5'50"8 |
| 3000m | 8'55"08 |
| 順位 | 10/19位 |



【レポート】

実業団の最高峰の試合である全日本実業団対抗選手権(大阪府大阪市:ヤンマースタジアム長居)に当社から平塚が出場しました。全日本実業団対抗選手権に出場するには基準タイムが設定されており、平塚はその基準タイムを得意の3000mSCで見事にクリアし、今回で4年連続4回目の出場となります。

当日の天候は、午前中は曇が多く日差しが遮られる状況でしたが、スタート時間(13時45分)には日差しが強くなり、30度近くまで上昇し、やや厳しいコンディションの中でスタートしました。

レースは、日本トップレベルの選手が先頭を走る状況で進んで行く中、平塚は冷静に状況を見極めながら、中盤からやや前の位置で進めていきました。

1000mが2分55秒、2000mが5分50秒と本人が目標としている日本選手権(日本の陸上競技において最高峰の試合)出場の基準タイム(8分50秒)と同じペースで推移し、何度となく跳ね返されたその壁を突破できるチャンスが巡ってきました。

ところが、2000m を過ぎてから、動きが固まり始めると表情も厳しくなり、いつものバネの効いた走りが影を潜め、大幅にペースダウンしたため、日本選手権出場が厳しい状況となりましたが、最後の水濠を越えてからはギアチェンジし、最後は粘りを見せ倒れこむようにゴールしました。

その結果、8分55秒08の自己新記録に加え、新電元歴代最高タイム（これまで
は当社陸上競技部の前任監督である中山順詞の8分55秒65）で走破しました。

調子が上向きで日本選手権を狙える位置にありながら、それを取りこぼしたことは
詰めの甘さを露呈した形となりましたが、しっかりと自己記録を更新できたことは、
一步一步向上している証であるため、次回こそは目標達成できるよう、課題として挙げられるスタミナ不足を克服し、再チャレンジしていただけることを期待します。

以 上